

文化・社会におけるジェンダー秩序の検討

研究代表者 杉原名穂子

1. 分担者

中村 潔
渡辺 登
松井 克浩
杉原 名穂子
北村 順生

2. 協力者・所属

佐山光子 (医学部)
丹野かほる (医学部)
福原昌恵 (教育人間科学部)

3. 2006年度の研究活動の概要

2006年度は経済学部の西澤輝泰教授を迎えて、研究会を1回、開催した。西澤氏は、「男女共同参画社会の構築に向けて」というタイトルで、人事管理制度の見直しや少子高齢化の急進展への対応として、女性労働力を重視することの効用と障害、課題についてとりあげた。経済学の分野で「眠れる資源」という観点から女性労働力に注目が集まりつつあるが、それは企業の活性化や労働の見直しのみならず、教育、家庭生活や地域振興、国土均衡化等への効果や、女性の地位・尊厳の向上など幅広い影響をもたらすものであり、ジェンダーの視点の有用性や必要性が指摘された。

4. 2006年度の研究成果の概要

ミネルヴァ書房から出版された『よくわかる社会学』でジェンダーとセクシュアリティに関する部分を担当した(杉原)。その他, 専門的なジェンダー研究の成果は以下の通りである。

5. 2006年度の研究成果の一覧

杉原名穂子

『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房(宇都宮京子編)2006年10月
(担当「Ⅶ ジェンダーとセクシュアリティ 1-4」116-123頁)
「教育意識と教育実践の再生産と地域要因」(『人文科学研究』第119輯,
2006年11月, Y89-110頁)